

# 社会科における教科の本質に迫る授業づくり

社会科 山田 耀

## 1 単元名

アジア州の経済発展(地理的分野 1年)

## 2 単元について

アジア州の1国である中国は2010年、GDPで日本を抜いて世界第2位となり、第一位である米国に近づいてきている。13億人の人口を有する中国は巨大市場でありながら、生産拠点としても世界中から参入があり、一大生産国となっている。しかしながら現在、各国からの進出企業はいずれも中国頼みの限界に直面しており、中国のほかに、もう1国を選択する「チャイナ・プラスワン」を展開してきている。その動きの中でめざましい経済発展をとげているのが、豊富な労働力をかかえる東南アジアや南アジアなどの新興経済国である。このように、アジア州は経済発展の要因となる労働力人口が多いこと、その人口を支えるだけの食料を生産できる産業の構造が整っていること、その生産に適した熱帯や温帯の気候であることといった地域的特色があり、日本や中国といった一部の国だけでなく、州全体で経済発展を遂げてきている。しかしながら、その一方で、豊富な労働力によって安い値段の製品を作ることができる代わりに、厳しい労働条件で働いている労働者がいることや、工場用地の建設のために山地を切り開くなどして環境問題を引き起こしていること、国内での経済格差が生じていることなどといった地球的課題<sup>1</sup>である経済発展による環境、社会への影響が生じている。

本単元ではこの地域的特色をとらえさせるために、アジア州のアパレル産業を取り扱う。アパレル産業は長い間、世界中で経済発展の源泉と考えられてきており、歴史的に国の発展や工業化を促進する役割を果たしてきた。しかしながら、この成長とファッションの加速する生産の裏側では、劣悪な労働条件と深刻な環境汚染が拡大・深刻化してきた。アジアにおいてもバングラデシュ、インドネシア、ベトナムなどの新興経済国の発展に重要な役割を果たしてきたが、2013年にバングラデシュの首都ダッカで生じた工場ビル崩壊をきっかけにその在り方が問われてきている。アジアにおけるアパレル産業の持続可能な在り方を考えることは、経済発展によって生じる環境問題や労働問題とどのように向き合うのかという地球的課題を考えることにもつながる。

生徒は、身近な服製品の比較から、生産地が中国から東南アジアに広がってきていることに気づき、アジア州全体の経済発展をとらえる。そして、経済発展によって生じている上記の問題を知る。生徒は、消費者として自分たちがアジア州の国々とかかわっているからこそ、経済発展によって生じている問題はこのままでよいのかと問題に向き合い、解決していきたいと目的意識が醸成される。そして、生徒はその実態を明らかにしようと追究をしていく。実態が明らかになっていく中で、自身との関連を見だし、仲間とよりよい解決の方法を検討する中で、問題の解決策を構想<sup>2</sup>していく。その過程で

<sup>1</sup> 新学習指導要領における内容の見直しでは、世界の諸地域学習に地球的課題の視点が導入されている。これは、持続可能な社会づくりの観点から、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育てることが求められていることに応じたものと考えられる。

<sup>2</sup> 中学校学習指導要領解説社会編(平成29年6月)では、「学習指導要領の内容において『選択・判断』とともに『構想』の表記を用いている箇所があることに留意する必要がある。」とされている。「構想する力」は、これまでの学習指導要領では言及されなかったものである。授業者は「構想する力」を「社会で見られる複雑な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基にして、複数の立場や意見を踏まえて自分なりの社会への関わり方を描く力」ととらえている。

生徒はアジア州の地域的特色を理解する。そして、日本、中国、新興経済国といったアジアの国々やその国の中で生活する経営者、労働者などの様々な立場の考えを尊重しながら、アジアのアパレル産業を通してこれからの世界における経済発展の在り方を見いだしていく。ここに本単元を学ぶ意義がある。

### 3 目標

- アジア州における経済発展によって生じている問題の解決策を構想する活動を通して、以下のことができる。
  - ・ アジア州に暮らす人々の生活を基にアジア州の地域的特色を大観し、理解すること
  - ・ 経済発展によって生じる問題の背景や影響を地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、アジア州の地域的特色を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること
  - ・ よりよい社会の実現を視野に、アジア州の経済発展によって生じる問題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うこと

### 4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎ 産業の立地を概念として獲得している。 ・ 温暖な気候や広大な地形を生かした農業が盛んなため、人口が急増し、その労働力や豊富な資源をねらって多国籍企業が進出して経済発展しているというアジア州の地域的特色を理解している。 ・ 急速な経済発展により、労働問題や環境問題といった地球的課題が生じていることを理解している。 ・ 諸資料からアジア州の経済発展に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	・ 経済発展によって生じる問題の背景や影響をアジア州の経済発展の広がりや地域日本とアジア NIES, ASEAN との結び付きなどに着目して、アジア州の地域的特色を関連付けて自然環境、人口、産業などの観点から把握し、日本の立場、アジア州の各地域の立場、経営者、労働者などの立場から考察し、表現している。	・ アジア州における経済発展について、その影響と自分自身の生活とを関連付けながら主体的に追究しようとする。

### 5 本単元における具体的な手だて

#### <手だてア>

アジア州における経済発展の事例として、身の周りの製品の生産地の変化に着目させる資料を提示する。

アジア州における経済発展の広がりやそれに伴う問題が生じていることに気づき、その問題と向き合いたいという目的意識を醸成するために行う。

単元導入時、新型コロナウイルス感染症拡大によって、人々の生活がどのように変わった

かを示しながら、マスクの値段の推移を示し、「なぜマスクの値段がこのように高騰したのか」と問う。生徒は「人々がたくさんマスクを必要として足りなくなったから」、「マスクの生産が間に合わなかったから」などと答える。そこで、日本に流通しているマスクの8割以上が中国産である資料を提示する。これにより生徒はこれまでの生活経験に加えて、改めて自分たちの生活と中国で生産された製品の結び付きを実感する。そこで中国で生産されたアパレル製品A(ジャケット:6500円とジーンズ:4000円)、ベトナムやバングラデシュで生産されたアパレル製品B(ジャケット:3000円とジーンズ:3000円)の2種類を価格は示しながら生産国をふせて提示し、どちらが中国の製品かと問う。生徒は、2種類の製品を比較しながら、価格・質感の違いから、「中国で作っているものは安いものだからBだ」、「Aは日本で作ったものではないだろうか」などと予想する。そこで、正解を示し、生徒の身の周りにある製品の生産地を調べる活動を行う。生徒は自分たちの身の周りにある製品がジャケットとジーンズと同じように、中国だけでなく、ベトナム、バングラデシュといった東南アジア、南アジアで作られていることに気付き、中国産の製品が多いという自身の認識とのずれを感じる。その上で、ジャケットやジーンズといったアパレル製品の生産地割合の推移のグラフを示し、そのグラフを読み取らせたり、バングラデシュ産の990円のジーンズを示したりすることで、中国から東南アジア、南アジアに生産がシフトし、その方が安く生産できる特徴をとらえさせる。そして、生産が移り変わってきたことで、東南アジアや南アジアの国々はGDPが上昇し経済発展が進み、アジア州の中で経済発展を遂げてきているGDP世界2位の中国や西アジアの産油国のように、都市が発展し人々の生活水準が向上してきているといった経済成長が著しい実態を知る。これらにより、生徒は中国だけではなく、自分自身の生活とアジア州の各国との結び付きを実感する。

そこで、改めてアパレル製品Aとアパレル製品Bを示し、消費者としては2つの製品のうち、1つを選択する場合、どちらの製品を購入するかを問う。生徒は「この質感の違いであれば、値段が安いベトナムやバングラデシュで生産された製品がよい」と考え、その理由として「中国で作るよりも東南アジアや南アジアで製品を作る方が安く生産できるので、今後もこれが進んでいけば自分たち消費者にとっては便利な状態が続く。そして、今まで発展していなかった東南アジアや南アジアなどの国のより一層の経済発展につながるはずだ」などと考えると予想される。

そこで、それぞれの生産国の工場で働いている労働者の様子やアパレル産業の進展によって環境問題が起きている実態をまとめた資料を提示する。この資料を読み取ることで、生徒はアジア州が経済発展により経済格差が生じていること、賃金の低い東南アジア・南アジアに多国籍企業が進出し厳しい労働環境の中で労働者が働いていること、二酸化炭素の排出量増加や水質汚染の進行といった経済発展によって生じる問題があることに気付く。そこで改めて、自分が消費者ならどちらの商品を購入するかと問う。生徒は、自身の選択が及ぼす影響を感じ先ほどよりも判断をすることに難しさを感じる。そして、消費者として自身がアジア州の国々とかかわっているからこそ、このままでよいのだろうかと考え、この問題の背景を深く知りたい、知った上でどのようにこの問題と向き合うことができるのだろうかを考えた、という目的意識が醸成され以下の課題を見いだす。

#### <本単元における課題>

アジア州の経済発展によって生じる問題を解決するためにはどうしたらよいのだろうか。

#### <手だてイ>

解決策を構想するために必要な学習過程を考案し、追究する活動を組織する。

問題を解決するための、自分なりの解決方法を創り出すための知識を構成していくために行う。

問題の解決策を構想するために、どのように学習を進めていくかを問う。生徒は、現状を知り、その原因や背景を明らかにすることで、解決策を構想することができると学習過程を考案する。そこで、それぞれの学習過程で追究し明らかにしたい内容を共有していく。これにより、生徒は課題解決までのゴールイメージをもつ。以下の内容が共有されることが予想される。

- なぜこれまで中国で多くの製品が作られていたのだろうか。(現在も作られているのだろうか)
- なぜ中国から東南アジア・南アジアに生産がシフトしてきたのだろうか。
- 生産のシフトにより東南アジア・南アジアではどのような問題が、なぜ起きているのだろうか。
- 中国では東南アジア・南アジアのような問題は起きていないのだろうか。

これらの内容を追究することによって、生徒は経済発展を切り口にアジア州の人口・産業・自然環境の特色を関連付けて、アジア州の地域的特色をとらえていく。具体的には、人口が多いこと、その人口を支えるだけの食料を生産できる産業の構造が整っていること、その生産に適した熱帯や温帯の気候であることを関連付けて、アジア州の豊富な労働力や資源をねらって多国籍企業が進出したことで日本や中国といった一部の国の経済発展から、東南アジアや南アジアといった地域にまで経済発展が広がってきていることを考察する。その一方で、経済発展によって生じている問題の実態をとらえる。具体的には、日本やヨーロッパの企業が利益を出そうと、なるべく安い商品を作ろうとするために低賃金で過酷な労働を強いているために、発展する都市(国家)がある一方で格差が生じ、労働問題が生じていることや豊富な労働力があるアジア州が生産の拠点であるアパレル産業は人間の活動によって排出される二酸化炭素量の10%を排出し、水源を干上がらせ、汚染物質を川に流し込んでいるなどの深刻な環境問題が生じていることを知る。

アパレル産業から見たアジア州の経済発展の背景と影響をとらえた生徒は、問題の解決策を構想していく。生徒はこれまでの学習で身に付けた知識を根拠に、「労働問題を解決していくためには、東南アジア・南アジアの商品をこれからもっと購入することがよいと考える。なぜなら、現在東南アジア・南アジアの国々でも労働者の賃金が上昇している。確かに今は厳しい労働条件のもと働いているが、これらの国の製品を購入することで、その国の経済発展に貢献できるはずだ。これにより、労働者の賃金は向上し、国家間の経済格差も少しずつなくなっていくはずだ」と考えたり、「環境問題を解決していくためには、アジアに進出している企業が環境に配慮した製品をもっと作るとよいと考える。また、作りすぎも控えた方がよい。それにより、安く作れなくなるかもしれないが、それよりも環境のことを優先すべきだ。」と考えたりする。

#### <手だてウ>

解決策の妥当性について根拠を基に検討する活動を組織する。

アジア州の経済発展についての見方や考え方の変容を促すために行う。

構想した解決策がどのような立場に影響を与えるのかを明示しながら検討させる。例えば、労働問題を解決するために、東南アジア・南アジアの商品を購入する解決策は、日本の企業の利益には通じたり、自分たち消費者にとっては安い商品を購入することができたりするよ

さがある一方で、その国の経済発展には必ずしも直結せず、労働者の労働条件の改善にはつながらなかったり、さらに国内や国家間の経済格差を広げてしまったりすることに気付く。これにより、生徒は構想した解決策によって、自分や自分にかかわる立場にはよさがある一方で、違う立場にとっては問題が解消されなかったり、新たな問題が生じたりすることに気付き、解決策がさらに練り上げられることができると考える。

そこで、「よりよい解決策となるにはどのような考え方が大切か」と問う。生徒は検討した解決策の中で有効と感じた解決策を基に、「どの国の人にとってもよさがある」や、「様々な立場の人が協力している」、「自分自身がどうするかも考えている」などの考え方を挙げる。これらの考え方を、持続可能な社会の実現に向けて必要な要素<sup>3</sup>である公平性、連携性、責任性に整理して、よりよい解決策を構想するための視点として共有する。これにより、生徒は自身の考えが、これらの視点から不十分であったことに気付き、新たに追究をしたり、仲間と検討したりすることで、日本の立場、アジア州の各地域の立場、経営者、労働者などの多様な立場の考えを尊重した解決策を構想することができる。

#### <手だてエ>

単元を通して考察したアジア州の経済発展の背景を基に説明する評価課題を課す。

構造化した知識を活用しながら、単元での自身の学びの有用性の実感を促すために行う。

課題解決の後に、アジア州の経済発展の背景を図式化させる。その上で、評価課題として「経営者から、中国から生産地をシフトする国を推薦してほしいと依頼を受けた時、どの国を推薦するか」を課す。生徒は、本単元において獲得した産業の立地という概念的知識を活用しながら、新たに資料を使ってその国の特色を調べながら自分なりの考えをまとめていく。その際に、公平性、連携性、責任性の視点も用いながらその国を選んだ要素を明確にしてまとめさせることで、今後のアジア州の持続可能な経済発展の在り方を考察することができる。これにより、生徒は本単元における自身の学びの有用性を実感する。

<sup>3</sup> 国立教育政策研究所 ESD の学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組みを参考。

5 本単元における構想（全9時間 本時7/9）

目的意識 身近な製品がかかわるアジア州の問題を明らかにし解決策を考えたい	生徒の意識	学習活動・学習内容	教師の支援・指導	評価の観点 評価の方法
	<p>身の回りの製品に中国以外の国が増えているぞ 東南アジアや南アジアの国で作れることで、私たちにとってもいいし、その国の経済発展にもつながるぞ 経済発展により問題が生じているぞ どのようにこの問題と向き合っていけばよいのだろうか</p> <p>中国から東南アジア・南アジアに生産が推移している背景が明らかになったぞ</p> <p>この解決策がよさそうだ</p> <p>この解決策や理由だと足りないところがあるぞ この視点で考えていけばよいのか</p> <p>社会を形成する一員として、この視点を大切にしていきたい</p>	<p>① 身の回りの製品からアジア州の経済発展に着目する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マスクの生産国の割合から中国の製品と自分の生活との結びつきを実感する。</li> <li>○ 2種類のジャケットとジーンズを比較し、どちらが中国の製品かを考える。</li> <li>○ 身の回りの物の生産国を調べ、中国産のものだけでなく、東南アジア・南アジア産の製品があることに気付く。</li> <li>○ アパレル製品の生産国の推移のグラフや990円ジーンズから、中国産から東南アジア・南アジア産の安い製品が増えてアジア州全体が経済発展していることをとらえる。</li> <li>○ 経済発展が進んだ国で労働問題や環境問題、経済格差といった問題が生じていることに気付く。</li> <li>○ どちらの商品を購入したいかを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【本単元における課題】</b></p> <p>アジア州の経済発展によって生じる問題を解決するためにはどうしたらよいのだろうか。</p> </div> <p>② アジア州の経済発展の背景を追究する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 解決策を構想するために必要な学習を共有する。</li> <li>○ 判断のために追究して明らかにしたい内容を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国における経済発展の背景</li> <li>・ 中国から東南アジア・南アジアへ生産が推移した背景</li> <li>・ 中国・東南アジア・南アジアで生じている問題の実際、その背景</li> <li>・ 問題に対応しようとしている取組</li> </ul> </li> <li>○ 追究活動を行う。</li> <li>○ 追究活動を基に解決策を構想する。</li> </ul> <p>③ 解決策やその理由の妥当性を検討する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで解決策を共有する。</li> <li>○ 仲間の解決策について調べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マスクや2種類のアパレル製品A・Bを提示し、どちらの製品が中国の製品か予想させる。<b>（手だてア）</b></li> <li>○ 生徒の身の回りの製品の生産国を調べさせる。</li> <li>○ アパレル製品の生産国の推移のグラフを示す。</li> <li>○ どちらの商品を購入したいを問う発問を講じる。</li> <li>○ 経済発展によって生じている問題をまとめた資料を提示する。</li> <li>○ 再度、どちらの製品を購入したいかを問う発問を講じる。</li> <li>○ 課題解決のための見通しを立てさせる。<b>（手だてイ）</b></li> <li>○ 書籍やインターネットを活用した追究活動を組織する。</li> <li>○ 解決策を共有させる。</li> <li>○ 解決策によって新たに生じる問題や解決できていない問題を示す。<b>（手だてウ）</b></li> <li>○ 持続可能な社会の実現に向けた視点を提示する。</li> <li>○ 解決策を共有する。</li> <li>○ 評価課題を示す。<b>（手だてエ）</b></li> </ul>	<p>【知技】 【思判表】 【主態】 WS</p> <p>【知技】 【思判表】 【主態】 WS</p> <p>【知技】 【思判表】 【主態】 WS</p> <p>【知技】 【思判表】 【主態】 WS</p> <p>【知技】 【思判表】 【主態】 レポート</p>

